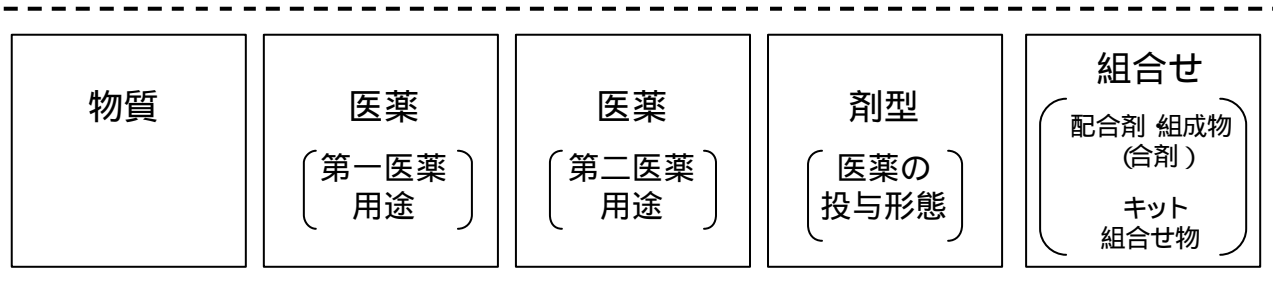


# 医薬の特定の使用方法について (事例)

資料 5 - 2

現在、特許として保護可能な範囲

物の発明



化合物 A

化合物 A を有効成分として含有する医薬

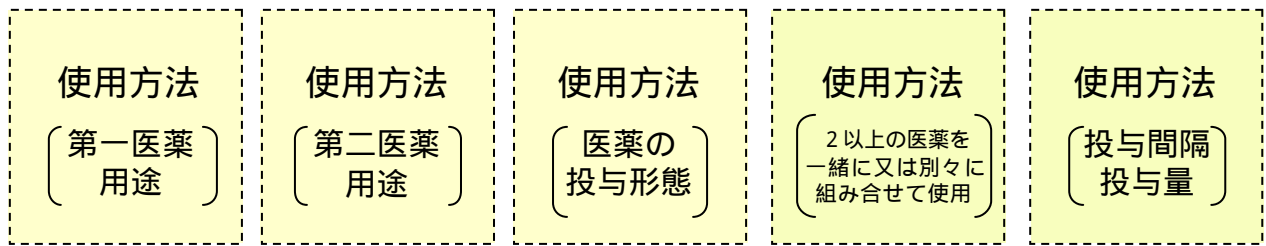
化合物 A を有効成分として含有する胃癌治療用医薬

胃酸の pH に応じて構造変化する担体 X に、有効成分である化合物 A を包接させた胃癌治療用の徐放性医薬製剤

化合物 A と化合物 B を組み合わせてなる胃癌治療用の医薬組成物

(注) 医薬には遺伝子や細胞が含まれる。

方法の発明



化合物 A を医薬として使用する方法

化合物 A を医薬として胃癌治療に使用する方法

胃癌治療のために、胃の内部で胃酸の pH に応じて担体 X が構造変化し、製剤中から化合物 A を徐放させるように、化合物 A を含有する徐放性製剤を使用する方法

化合物 A を含有する医薬と化合物 B を含有する医薬とを組み合わせる胃癌治療に使用する方法

胃癌治療のため、X mg の化合物 A を含有する医薬を使用し、Y 時間後に、Z mg の化合物 B を含有する医薬を W 時間に渡り使用する方法

医薬の特定の使用方法

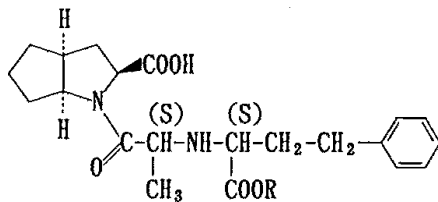
〔医療機器・医薬の機能・システムや特性等に基づいて作動、動作、用法などに技術的な特徴がある方法〕<sup>1</sup>

# 医薬の特定の使用方法

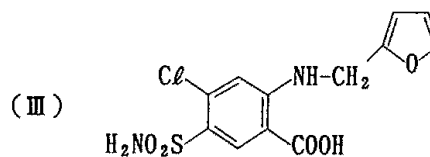
医薬の特定の使用方法 (2以上の医薬を一緒に又は別々に組み合わせて使用する)

(事例 1) 高血圧治療のため、式 (I) で表されるアンジオテンシン変換酵素阻害剤と、式 (II) で表される係蹄利尿剤とを組み合わせて使用する

米国特許第 5,256,687 号 (1992 年出願) を参考にして加工作成



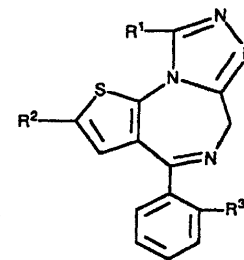
(I)



(II)

(事例 2) アレルギー治療のため、式 (I) で表される PAF 拮抗薬と、クロルフェニラミン、クレマスチン及びケトチフェンから選択される抗ヒスタミン薬とを組み合わせて使用する

米国特許第 5,334,592 号 (1992 年出願) を参考にして加工作成



(I)

(事例 3) 悪心及び嘔吐の治療及び / 又は予防のため、グラニセトロンとデキサメタゾンを組み合わせて使用する

米国特許第 5,929,059 号 (1997 年出願) を参考にして加工作成

(事例 4) 過増殖性血管病の治療及び / 又は予防のため、ラパマイシンとヘパリンを組み合わせて使用する

米国特許第 5,288,711 号 (1992 年出願) を参考にして加工作成

# 医薬の特定の使用方法

## 医薬の特定の使用方法 (投与間隔 投与量)

(事例 1) 過度の骨吸収を抑制するため、ビスホスネートをアンドロン酸活性体基準で  $35\text{mg} \sim 70\text{mg}$  含む医薬を、週一回の投与間隔を有する連続スケジュールに従って使用する方法

米国特許第 5,994,329号 (1998年出願)を参考にして加工作成

(事例 2) ホルモン依存症を治療するため、LH-RH拮抗物質であるセテロレリックスを、開始投与量は一日あたり1~60mg、その後の維持投与量は一日あたり0.1~10mgで使用する方法

米国特許第 5,663,145号 (1994年出願)を参考にして加工作成

(事例 3) タキソール応答性腫瘍の血液学的毒性を軽減しつつ抗腫瘍効果をもたらすため、(a) (a1)タキソール使用の12時間前及び6時間前に効果的な量のデキサメタゾンを使用し (a2)更にデキサメタゾン使用後タキソール使用前に効果的な量の(i)抗ヒスタミンと(ii)シメチジン又はラニチジンを、(b)タキソールは $175\text{mg}/\text{m}^2$ を3時間に渡り使用する方法

米国特許第 6,414,014号 (2000年出願)を参考にして加工作成